

とうきょう すくわくプログラム活動報告書



施設番号	66-1436
施設名	うきま絆第二保育園
施設所在地	東京都北区浮間3-1-55
法人名	社会福祉法人絆友会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

身近な自然に触れ、観察し五感で感じ新たな発見をする

<テーマの設定理由>

当園では戸外への散歩の機会が多く、近隣の広場や土手、公園までの道のりには様々な自然があります。これまでも遊びを通して自然に触れてきましたが、「身近な自然」により着目することで、子どもたち一人ひとりが自ら興味を持ったことへの新たな発見を促したいと考え、本テーマを設定しました。

2. 活動スケジュール

令和6年9月から令和7年3月
計7回（9月、10月、11月、12月、1月、2月、3月）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

タブレット マイク スピーカー モニター
虫取りあみ 虫かご パソコン など

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

土手や赤羽けやき台公園など自然豊かな場所への散歩を通し、「身近な自然に触れ、観察し、五感で感じ新たな発見をする」をテーマに活動を行いました。子どもたち自身の気づきや、発言を大切に、一人ひとりが主体的に取り組めるように配慮しました。

草花や木の実、昆虫を見つけて観察する事から始まり、タブレットで撮影したり、手足だけでなく落ち葉の上に寝転がり全身で感覚を楽しんだり、五感を使って自然を体感しました。タブレットで撮影した画像を子ども同士で見せ合い、図鑑などを使って更に調べ、探求心を高める機会となりました。

捕まえた幼虫を飼育し、羽化までの過程を観察する事も出来ました。成虫への変態の過程では図鑑を見ながら「どんな蝶になるかな？」と意見を交わし合い、それぞれの考えを伝え合う姿が見られました。また、冬には霜柱を見つけて「冷たい」「ザクザクする」と感触を楽しみ、同じ落ち葉でも秋に触れた落ち葉と冬の落ち葉では色や感触が違う事に気づき、その感覚を言葉や音にして伝え合う姿も見られました。

このように実際に自然に触れる活動だけでなく、タブレットなどの機器も活用しながら、子どもたちの探求がその場限りで終わらないように工夫しました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

同じ自然物でも、子どもによって注目するポイントが異なり、色に興味を持つ子、大きさや形を気にする子など様々でした。捕まえた幼虫を飼育した際には、羽化がうまくいかなかった個体にも「なんでだろう？」と疑問を持ち子どもたち同士でその理由を言葉にして話し合うなど、考える姿も見られました。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

身近な自然の中でも、それぞれ興味や関心の対象が異なり、同じものでも一人ひとり違った着眼点や発見がある事を改めて感じました。色や大きさ、形に注目する子、過去の実体験と結び付けて考える子、想像を広げる子もいました。

活動を重ねる中で、興味が似ている子同士で考えを伝えあうだけでなく、タブレット等を使って他の子にも自分の気づきを共有する事ができ、新たな考えや見方が広がっていきました。子どもたちの疑問に対して、主体性を大事にしながら保育者も一緒になって調べたり考えたりする事が大切だと再認識しました。